

2026 年 7 月

いちご株式会社
2027 年 2 月期 第 1 四半期
グローバル Web 決算説明会 Q&A サマリー

【説明者】

いちご株式会社（証券コード 2337 東証プライム）

代表執行役会長 スコット キャロン

財務本部事業推進部長 森作 ダン

- ※ 英語で開催された機関投資家向けグローバルカンファレンスコール Q&A の要約です。
当社 HP に動画配信と決算説明資料を掲載しておりますので、是非ご参照ください。

英語の動画配信

www.youtube.com/watch?v=0XqqmOFBpc

英語の決算説明資料

www.ichigo.gr.jp/news/p_news_file/file/Ichigo_20260715_Corporate_Presentation_FY27Q1_ENG.pdf

1. 浮動株比率が上場維持基準の下限に近づいているが、今後の自己株式取得の方針は

[キャロン]

現在、当社の浮動株比率は 40%程度であり、東証プライム市場の上場維持基準である 35%に対して、なお一定の余裕がある。

当社は高い収益性を有するビジネスモデルを背景に、事業投資とのバランスを踏まえても、増配および自己株式取得の双方を十分に実施可能な財務基盤を有している。将来的には還元の重点を大幅な増配に移す局面も想定されるが、現時点では当社株価は依然として割安な水準にあると認識しており、機動的な自己株式取得を優先している。

2. 第 2 四半期以降、バランスシートが縮小する見通しとのことだが、トレードピアお台場のような大規模物件を売却した場合、余剰資金はどのように活用するのか

[キャロン]

当社はここ数年、建設コストの上昇を背景としたインフレ環境下での不動産価格上昇を見据え、バランスシートを拡大させてきた。現在は、その過程で積み上げてきた含み益を収益として実現する局面にある。不動産価格の上昇に加え、世界的な不確実性が高まるなかにあっても、資本効率を最重視する方針に変わりはない。余剰資金については、事業投資とのバランスを踏まえながら、株主価値の最大化に資する形で活用し、適切な株主還元を行っていく。

3. 心築事業の通期事業利益予想 185 億円は、保守的か

[キャロン]

保守的な計画だと考えている。当社では、目標達成に向けて特定の資産売却に依存することなく、常に複数の売却シナリオを用意している。これにより、市場環境に応じて最適な売却タイミングを選択できる柔軟性を確保するとともに、より有利な価格での売却を追求し、計画達成の確度を高めている。

※ 心築（しんちく）とは、いちごの不動産技術とノウハウを活用し、一つ一つの不動産に心を込めた丁寧な価値向上を図り、現存不動産に新しい価値を創造することで、日本における「100 年不動産」の実現を目指しています。

以 上